

# ぐるり30

～自治調査会だより～

2014  
1

NO. 004

[発行日]  
2014.1.1



【タイトル】 どんど焼 【撮影者】 仲條 年春（青梅市） 【撮影場所】 羽村市

- ▶ 多摩東京移管 120 周年記念シンポジウム 参加者募集 ..... 2
- ▶ シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介！ ..... 3  
第 7 回八丈町
- ▶ オール東京 62 市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト
  - ・体験型一般公開講座 ..... 8
  - ・福生市「みどりのカーテン大作戦」 ..... 9
- ▶ 多摩交流センターだより
  - ・第 17 回多摩の歴史講座終了報告 ..... 10
  - ・第 21 回 TAMA とことん討論会 参加者募集 ..... 11
  - ・「はやぶさが切り拓いた未来！」特別講演と映画鑑賞会 終了報告 ..... 12
  - ・大島町への義援金の御礼 ..... 12

- ・多摩発・遠隔生涯学習講座 ..... 13
- ・東京雑学大学 2 月講義案内 ..... 13
- ・TAMA 市民塾 創立 20 周年記念シンボルマークの公募について ..... 14
- ・広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介 ..... 14
- ・「多摩市町村のあゆみ」発行予告 ..... 15
- ▶ 編集後記 ..... 15
- ▶ とっておき特産物 第 32 回 西東京市 ..... 16



多摩東京移管120周年

多摩の魅力発信プロジェクト

参加者募集

多摩東京移管120周年記念  
シンポジウム

## たまには多摩の話を

～知れば知るほど好きになる～

平成25年度は、多摩地域が神奈川県から東京都(当時の「東京府」)に移管されて120周年にあたります。この間多摩は、歴史の大きなうねりに翻弄されつつも着実に発展を遂げてきましたが、その節目では一体どのような顔を見せてきたのでしょうか。また、多摩を取り巻く状況はどうだったのでしょうか。

意外と知られていない多摩の歴史トピックを幾つか取り上げ、「プレゼンター」が分かりやすく解説します。併せて、来場者参加型のクイズを行い、「へえ～、知らなかった!」「そんなことがあったんだ!」といった体験をとおして、多摩地域に親しみや愛着を持っていただくとともに、多摩地域の魅力や将来について考えるきっかけを提供いたします。

**日時** 平成26年2月3日(月)

開場・受付開始 13:00

開 会 13:30

閉 会 16:30(予定)

**会場** 小金井市民交流センター大ホール・3F  
(東京都小金井市本町6-14-45)**主催** 公益財団法人東京市町村自治調査会**後援** 東京都、東京都市長会、東京都町村会**定員** 500名(一般住民 400人、  
多摩地域の自治体職員 100人)**入場料** 無 料

## 当日プログラム

第1部

トークショー(仮称)

## 「多摩の歴史をふりかえる」

[コーディネーター兼プレゼンター]

| 嵐山光三郎 氏(作家)

[プレゼンター]

| 平野啓子 氏

(語り部・かたりすと、「美しい多摩川フォーラム」副会長、武蔵野大学非常勤講師)

| 臼井 努 氏

(京西テクノス(株)代表取締役社長、多摩産業人クラブ会長、  
多摩ブルー・グリーン倶楽部会長、多摩未来奨学金審査委員(副委員長))

| 増山 修 氏

(画家・アニメーション美術家 1999年スタジオジブリ入社後、  
2009年独立して(株)インスパイアードを設立)

第2部

## 「クイズ知ってなっとく多摩」

[基調講演、解説・講師]

| 菊地俊夫氏(首都大学東京都市環境科学研究科教授)

[オープニングアトラクション、アシスタント]

| LLR(東京都住みます芸人)

[回答者(クイズ対抗戦)]

| 中央大学、首都大学東京、玉川大学、  
東京学芸大学 ほか

[付帯実施]

「江戸東京野菜」そのほか粗品を  
参加者にもれなくプレゼント

## ■事務局お問合せ先・参加者募集窓口

「多摩東京移管120周年記念シンポジウム事務局」

所在地：〒105-0021 東京都港区東新橋2-4-6

パラッツォシエナ7階

TEL：03-5408-1013

(平日10:00～17:00 但し、平成25年12月28日(土)～

平成26年1月5日(日)は除く)

FAX：03-5408-1015 (24時間受付)

■応募締切 平成26年1月20日(月)消印有効

■参加者決定方法 応募者多数の場合は抽選、決定者には「参加証」を配布します。

## ■参加申し込み方法

参加ご希望の方は、氏名、郵便番号、住所、電話番号をご記入のうえ、ハガキ、FAX、ホームページのいずれかからお申し込み下さい。  
※応募者の個人情報は、当シンポジウムの運営にのみ使用します。

①宛先：「多摩東京移管120周年記念シンポジウム事務局」

②ハガキ・FAX：上記事務局

③ホームページ：  (検索ワード)<http://www.chiikiriyoku-up.com/tama-tokyo-ikan>



## シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

### 第7回 八丈町

このシリーズでは、東京の島しょ地域の魅力をお伝えするため、島しょ地域における、まちの取り組みや観光資源、役場の概要、職員の方へのインタビューなどを紹介しています。第7回となる今回は、八丈町を取り上げます。

※シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介! 第1回大島町、第2回御蔵島村、第3回神津島村、第4回利島村、第5回三宅村、第6回新島村の特集は、自治調査会ホームページ(「What's New?」294号、295号、299号、301号、「ぐるり39」1号、2号)でご覧いただくことができます。

### 八丈島とは?

八丈島は、都心から南に約290kmの伊豆諸島南部に位置しており、黒潮に浮かぶ南国情緒豊かな花と緑と温泉の島です。高知県の室戸岬や長崎県佐世保市と同緯度(北緯33度)に位置し、面積は約70km<sup>2</sup>で、島の北西側に伊豆諸島最高峰の八丈富士(標高854.3m)が、南東側に三原山(標高700.9m)がそびえています。富士箱根伊豆国立公園の一部で、鹿児島県の気温を上回る温暖な地のため、島内のいたるところに、ヤシ、シダ類の亜熱帯植物が繁茂しています。その樹勢と豊かな色彩は、ハワイにも劣らない景観とされています。

また、八丈島はハイビスカス、ストレッチア、フリージアなどの花や、一年中緑の映えるフェニックス・ロベレニー、ピロウヤシなど、国内有数の亜熱帯性植物の栽培地で、大正時代から続いています。

島内には温泉も多く、そのすべてが<sup>かしたて</sup>檜立地域、<sup>なかのこう</sup>中之郷地域、<sup>すえよし</sup>末吉地域という島の南東部に位置しています。7カ所の温泉施設があり、無料で入ることができるものもあります。

今では地熱発電によるクリーンエネルギーの島、花と緑と温泉の島として注目され、毎年多くの観光客が訪れています。



▲伊豆諸島最高峰の八丈富士\*



▲八丈島全体図\*

～花と緑と温泉の島～

# 八丈町


**HACHIJYO**


## 見所①(歴史)

八丈島には約6,500年前に人が住んでいた痕跡が見つかっています。しかし、それから今日までずっと住み続けていたわけではなく、無人島だった時代もありました。

八丈島が本土の支配下に置かれたのは、記録によると鎌倉時代の1186(文治2)年で、相模の国に属していたようです。

また、統治機関が最初に置かれたのは室町時代の1338(延元3)年です。その後、15世紀の末に三浦氏・北条氏の統治時代を経ます。江戸時代の徳川幕府や明治時代の政府は八丈島に約1,900人の流人を送り込みました。この流人たちと、もともと島に住んでいた人々によって、八丈島独特の習俗、習慣、生活様式が生まれました。

さらに、1869(明治2)年には相模府に属し、八丈島に三根村、大賀郷村、樫立村、中之郷村、末吉村が、八丈小島に宇津木村、鳥打村が誕生しました。その後、1870(明治3)年に葎山県、1871(同4)年に足柄県、1876(同9)年に静岡県の所管となり、1878(同11)年に、東京府に移管されて以来、今日の東京都の所管となっています。

このように、ざっと年表的に記しただけでも八丈町の変遷をうかがうことができますが、ここではさらに歴史を身近に感じることができる八丈島の施設を紹介します。

## ふるさと村

大賀郷地域に所在するふるさと村では、八丈島の伝統工法により昔の民家を修復して公開しています。

伝統的な石垣である玉石垣に囲まれた敷地に、母屋をはじめ高倉や牛小屋(マヤ)、便所などが復元しており、かつての島の暮らしぶりをうかがうことのできる施設です。

昭和40年代までは茅葺の民家も多く残っていましたが、昭和50年の台風によりかなりの家屋が被害を受けました。その後急速に現代的な家屋への建て替えが進みました。

## 八丈島歴史民俗資料館

八丈島の歴史や民俗について、実物の資料を通じて紹介する資料館です(入館:有料)。八丈島観光の最初にぜひ足を運んでみてください。

館内には、先史時代の生活を示す石器・土器から島の生活を物語る用具・道具の数々、古文書、また流人の生活をしのばせる遺品、島の代表的な名産の一つである黄八丈<sup>きはちじょう</sup>を作るための道具など、約1,500点におよぶ資料がテーマごとに展示されています。

資料館の建物は、かつての東京府八丈支庁舎として使用されていたものです。平成11年に国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。



▲国の登録有形文化財(建造物)である資料館の外観



▲資料館内の“黄八丈”の展示コーナー



▲ふるさと村の母屋



▲ふるさと村の高倉



## 町の概要(平成25年4月1日現在)

- \*位 置 都心から南に約290kmの海上に位置する島
- \*面 積 72.62km<sup>2</sup>
- \*人 口 7,990名 世帯数 4,464世帯
- \*アクセス(船または飛行機)
  - ・海 路 竹芝桟橋→三宅島→御蔵島→八丈島  
 <東海汽船(株)>「さるびあ丸」(約10時間)
  - ・空 路 羽田空港→八丈島空港  
 <全日本空輸(株)>(約1時間)

## 見所②(植物)

“花と緑と温泉の島”八丈町。そのすべてが自然からの贈り物です。島内の各所にハイビスカスが植えられていて、ほぼ1年中真っ赤な花が咲き乱れ、南国を感じさせます。

また、島の樹木のほとんどが常緑樹で、常に山は緑の化粧をしています。

### 真っ赤な花の“ハイビスカス”

夏になると島中でよく見かける赤い花がハイビスカスです。開花シーズンは、観光での移動中も車窓から真っ赤な花のハイビスカスを眺めることができます。



▲歩道に植えられたハイビスカス



▲ハイビスカスの花

### 春を彩る“フリーズア”

3月頃になるとフリーズアの花が咲き、「フリーズアまつり」が開催されます。

会場では色とりどりの花が咲き乱れ、観光客には、無料摘み取りなどのサービスがあります。



▲フリーズアまつりの会場\*

## ビュースポット

### 八丈富士(大坂トンネルより)\*▶

八丈島には、すばらしい景色を楽しむスポットがたくさんあります。なかでも大賀郷と榎立を結ぶ大坂トンネルの大賀郷側からの眺めは、正面(写真の右側)に望む八丈富士、眼下(写真中央下側)の横間海岸、海の上(写真左側)には八丈小島と、迫力満点のパノラマが広がっています。



## シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

### 第7回<八丈町>

#### あしたば 明日葉

明日葉はセリ科の植物で、伊豆諸島などに分布していますが、八丈島が原産地とも言われています。「今日、葉を摘んでも翌日にはすく新しい芽を出す」と言われるほど生命力が強い植物です。

明日葉の葉は、おひたしや天ぷら、和え物などにして食することができるため、八丈町では農業として栽培・出荷しています。



▲明日葉

### 都立八丈植物公園

都立八丈植物公園は、八丈島に広がっている熔岩原の自然林の中に多種類の亜熱帯植物が繁茂し、いたる所で小鳥のさえずりが聞こえる、大きな公園です。

公園内にある温室には、ハイビスカスやブーゲンビリアなどの花木類、トックリヤシやタバビトノキなどの観葉植物、パパイヤやマンゴーなどの果樹類など、あわせて100種類以上の植物が展示されています。



▲公園内にある八丈ビジターセンター

(公園をより利用しやすくするための手助けをする施設。解説員が常駐しています。)



▲公園内にある温室の正面

## 見所③ (温泉)

冒頭でも述べましたが、火山島である八丈島は、島内に温泉も多く湧き出ています。無料で入れる温泉施設もあり、毎日利用する町民がいるほど、人気があります。

ここでは、その中から2つの施設を紹介します。

### 末吉温泉みはらしの湯

末吉地域にある温泉で、露天風呂と内風呂の展望風呂があります(有料)。高台にあるため、露天風呂からの眺めは最高です。太平洋の大海原、八丈島灯台を見渡せる絶景の立地です。



▲みはらしの湯の露天風呂



▲みはらしの湯の展望風呂

### うらみがたき 裏見ヶ滝温泉

中之郷地域にあり、滝を見下ろすロケーションに造られた温泉施設です(無料)。末吉温泉みはらしの湯とはまた違った絶景を見ることが出来ます。

男女混浴で、水着着用での入浴となります。

※石鹸・シャンプーなどの使用はできません。



▲裏見ヶ滝温泉

## 八丈小島

八丈町には人が住む八丈島のほかに、現在は人が住んでいない八丈小島もあります。

八丈小島は、八丈島の北西7.5kmの洋上に浮かぶ火山島で、面積が3.1km<sup>2</sup>、中央部に太平山(標高616.8m)をようしています。電話・水道・医療の施設がないなどの生活上の理由から、昭和44年6月に島民全員が離島し、無人島になりました。

八丈島の展望スポットから見える八丈小島はよいアクセントになり、素晴らしい景観を作り上げています。



▲八丈小島\*

## 八丈島地熱館

東京電力管内の地熱発電所としては唯一商用化された八丈島地熱発電所に隣接して、八丈島地熱館は建っています(有料)。

東京電力が設置・運営していましたが、平成25年8月31日から町営として再出発しました。

八丈島の成り立ちのほか、地熱そのものや八丈島の地熱発電所の仕組みなどを分かりやすく紹介しています。



▲八丈島地熱館の全景\*



## 八丈町役場(平成25年4月1日現在)

所在地 〒100-1498  
 東京都八丈町大賀郷2551番地2  
 町長 山下 奉也(やました ともなり)  
 職員数 240人  
 財政 決算収支(普通会計)(平成24年度)  
 歳入:9,591百万円 歳出:9,317百万円  
 主産業 観光業、農業、漁業

※所在地は平成25年10月1日現在



▲山下奉也町長\*



▲平成25年5月に完成した八丈町役場

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第7回<八丈町>

## 名産(黄八丈)

無形文化財の中でも国が記録作成等の措置が必要だと選定した、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」になっている“黄八丈”は、八丈島で織られている縞の絹織物で、古くから名産に数えられています。

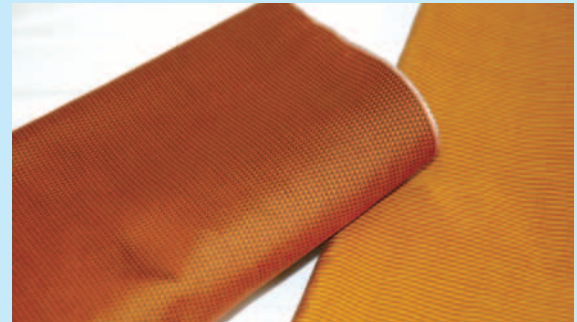
八丈刈安といわれるコブナグサと椿・榊の枝葉の灰汁で黄色を、マダミといわれるイヌグスの樹皮と灰汁で茶色を、椎の樹皮と泥づけで黒色をそれぞれ染め出します。原料の植物は八丈島に豊富にあるものです。各種の縞や格子などの模様が中心に織られています。

八丈島では現在でも、年間に反物で約470反、帯で約370本の黄八丈が織られていて、高級な反物から手頃に手に入れられる土産物まで、様々な品物として販売されています。

黄八丈を作るために使用されていた古い道具類は、八丈島歴史民俗資料館で見ることができます。

## 体験してみよう! 黄八丈の織物体験

島内には黄八丈の織物体験ができる工房もあり、子どもから大人まで体験することができます(事前予約制、有料)。女性のみならず、男性にも人気があるとのこと。



▲黄八丈\*



▲染色した絹糸を乾かしている様子



▲織物体験の様子

## 役場職員インタビュー



八丈町企画財政課企画情報係

鈴木 進吾さん

平成23年4月入庁。現在は企画財政課で町の企画や情報政策に携わっている。

### 鈴木さんが八丈町に就職した理由は?

多摩地域出身ですが、知り合いが八丈島に住んでいて、5~6年の間、観光で訪れているうちに、島の環境にすっかり魅了されました。“島をより良くしたい”との思いから、就職・移住を決意しました。

飛行機が1日3便就航しており、交通の便が良いことと、大きな病院があることも最終的な移住を後押ししました。

### 町が取り組んでいる重点事業は?

地熱発電に力を入れています。発電の出力を上げて、ゆくゆくは町全体の電力をまかなえるようにしたいと考えています。

### 八丈島を訪れる方へメッセージをお願いします!

とにかく環境が素晴らしいので、雄大な黒潮の海に包まれた、色鮮やかな景色の中で、のんびりと「島時間」を満喫してほしいです。

黄八丈や島寿司、八丈太鼓など、黒潮がもたらした歴史や文化が色濃く残る島なので、ぜひお越しいただき、八丈島を全身で感じてください!

八丈島におじゃりやれ!(島言葉で「お越しください」の意味)

取材協力、図・写真提供(\*印)/八丈町



オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト

## 体験型一般公開講座

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の一環として、地球温暖化防止や自然保護に対する意識を養い、都民の交流を通して環境に配慮した生活や行動を促すことを目的に、「体験型一般公開講座」を実施しました。

この講座は、都民を対象として、東京の自然を森林セラピーなどを通して体験・再発見していただいたり、最先端省エネ技術や家庭でできる省エネなど、エネルギー問題のポイントを学んでいただいたりする事業であり、その報告を今月号と来月号で行います。今月号では平成25年8月から10月の間に実施した講座について紹介します。

### 《実施結果》

#### 檜原村森林セラピー体験

日程 ①8月23日(金) ②10月25日(金) 参加者 ① 12名 ② 12名

払沢の滝を散策し都民の森で昼食した後に、森林セラピーロード(大滝の路)をガイドウォークし、最後に数馬の湯に浸かり檜原を満喫しました。



▲払沢の滝にて (8/23 実施)



▲ガイドウォーク (10/25 実施)

#### 奥多摩町森林セラピー体験

日程 10月11日(金) 参加者 17名

奥多摩湖畔で森林ヨガ、昼食はそば打ち体験、奥多摩湖いこいの路をガイドウォークしました。

10月16日開催予定の講座については残念ながら台風接近のため中止となりました。



▲森林ヨガ



▲奥多摩湖いこいの路ウォーク

#### 施設見学会 多摩地区25市1町の～家庭ごみの最後を訪ねる～

日程 10月31日(木) 参加者12名

二ツ塚処分場やエコセメント化施設、谷戸沢処分場跡地などを見学し、ゴミの減量化と有効活用、自然環境の保全と再生について学びました。最後はつるつる温泉に入浴し疲れを取りました。



▲二ツ塚処分場・エコセメント化施設見学



▲谷戸沢記念館見学





## オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」では、平成25年度も自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及、啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。

今回は福生市の事業について紹介します。



福生市

# 「みどりのカーテン大作戦」

みどりのカーテン大作戦は、平成21年4月に福生市役所環境課と福生スクラム・マイナス50%協議会との協働事業として始まりました。事業内容は①ゴーヤの苗や種の配布、②みどりのカーテン講習会、③みどりのカーテンコンテストの大きく分けて3つあります。

今回ご紹介するのは、みどりのカーテンコンテストです。今年度が5回目となるこのコンテストにはみどりのカーテン部門と育成アピール部門の2部門があり、それぞれにおいて最優秀賞、優秀賞、特別賞があります。

応募者を募る段階では「今年はみどりのカーテンの発育の状況が良くない。」といった声も聞かれましたが、15人(団体含む)の応募があり、みどりのカーテンではお馴染みのゴーヤだけでなくアサガオやパッションフルーツ、コリンキー、ヘチマなど、様々なツル性植物によるみどりのカーテンの応募がありました。

みどりのカーテン部門の審査は写真審査で行い、小嶋寿夫さんが最優秀賞を受賞しました。屋外からの写真だけでなく、家の中から撮った写真が、部屋の涼しさを感じられた点が大きく評価されたようです。

育成アピール部門は福生市立福生第七小学校環境委員会が最優秀賞を受賞しました。「今年はアサガオ、ゴーヤ、カボチャのグリーンカーテントリオを考えていたものの、カボチャが猛暑の影響でカーテンにならずに残念であった。しかしながら、植える時期をずらして2回に分けたことで例年になくみどりのカーテンを楽しむことができた。」と、様々な工夫を凝らしたエピソードが高評価を得たようです。

猛暑にも負けない皆様の取り組みが素晴らしいみどりのカーテンを生み出し、夏場の使用エネルギーの削減と緑化の推進が図られました。



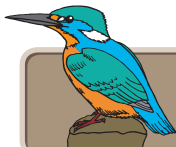
▲みどりのカーテンコンテスト表彰式



▲小嶋寿夫氏  
の作品  
(みどりのカーテン部門最優秀賞)



▲福生市立福生第七小学校の取り組み  
(育成アピール部門最優秀賞)



## 多摩交流センターだより

### 第17回

# 多摩の歴史講座 終了報告

公益財団法人東京市町村自治調査会・公益財団法人たましん地域文化財団 共催

今年度は多摩地域が東京都(当時の東京府)に移管されて120周年に当たります。

第17回「多摩の歴史講座」は、これを記念し、東京都の「多摩の魅力発信プロジェクト」の一環として、10月から11月にかけて実施しました。

移管後120年の歴史の中で、戦後の復興から高度経済成長による景観や暮らしの変貌に焦点を当て、多摩地域の景観や暮らしの移り変わりを改めて考えていただけるような内容としました。

今回は、20代から80代までの幅広い年齢層の67名の受講生のご参加を得、第1講、第3講を国分寺労政会館で、第2講の見学会を八王子市の独立行政法人都市再生機構技術研究所で実施しました。

以下、その内容を簡単に報告します。

### 第1講 (10月25日)

#### 「変貌する農村 —戦前から戦後の日野の暮らし—

日野市郷土資料館の北村澄江氏が日野市の戦前、戦後の生活と景観の変化を、同館が収集した写真資料を使用し、歴史を振り返りながら解説されました。年配者にはどこか懐かしく、若い受講生の方は東京の田園風景に目を見張ったのではないかと思います。



▲講演の様子

### 第2講 (11月8日)

#### 見学会「集合住宅歴史館 —同潤会アパートから戦後の2DK・テラスハウス・高層アパートへ、集合住宅の歴史から見る多摩の団地—

UR都市機構技術研究所副所長の祖谷 太氏から集合住宅やその設備の変遷、設計者の工夫等のレクチャーがあり、保存されている同潤会の単身者用や世帯用の住居、当時の食堂の意匠を凝らした窓、高層住宅のエレベーター設置の工夫等の展示物を見学しました。丸チャブ台や当時のカレンダーといった時代に沿った小物の展示もあり受講生の方々は興味深く見学できたようです。また、見学後のクイズにも楽しく参加していました。こちらの技術研究所には今回見学した施設のほか、KSI住宅実験棟、環境共生実験ヤード、地震防災館、すまいと環境館、居住性能館が見学できる施設として併設されています。



▲多摩平団地テラスハウスの復元

### 第3講 (11月22日)

#### 「村から街へ —多摩ニュータウン事業用写真を『読む』—

公益財団法人多摩市文化振興財団の清水裕介氏が地域資料として寄せられた写真や事業資料として撮影された航空写真、地上写真を使い、多摩ニュータウンが大きく変貌してきた様子を解説し読み解いていただきました。多摩ニュータウン造成時に使用された重機のその後の利用状況まで説明され、どこかほっとした気持ちになりました。



▲講演の様子

今回の歴史講座でご講義いただきました講師の先生、参加されました受講生の皆様に厚くお礼申し上げます。次回も皆様に興味を持っていただけるような講座を計画しますので、ご期待ください。



# 第21回 TAMA とことん 討論会 参加者募集

多摩地域のごみの量は全国平均を下まわり、高いリサイクル率を維持しています。これらの数値は、市民の減量意識、事業者の協力、行政の取り組みなど様々な活動が重なり合い、それぞれの主体が努力してきた成果ともいえるでしょう。

しかし、ごみを減らすための活動に終わりはなく、次世代へとつなげていくことが重要です。

そこで、今回の討論会では、主に子どもたちを対象に、さまざまな活動現場・担い手が行っている「ごみ教育」の事例を共有化し、将来を見据えながら「ごみの少ない多摩地域」を築いていくための情報交換の場をつくることにしました。ごみ問題を他人事と考えるのではなく、自分自身の問題として捉えることができる子どもたちを一人でも多く育てるために、私たちおとながどんな行動をすべきなのかを参加者全員で考えます。

また、多摩地域の各市町村でも、さまざまな啓発事業が行われています。討論会事前アンケートとして、事業の内容や課題などについて調査し、資料としてまとめ、発表する予定です。どうぞご参加ください。

○テーマ 次世代に伝えたい「ごみ」のこと～ごみ教育の現場から

○日時 平成26年2月14日(金) 12時30分～18時00分

○会場 アウラホール(京王聖蹟桜ヶ丘S・C A館6階)

○参加費 無料

ただし、希望者は資料代500円(事前申込み<sup>\*</sup>は400円)  
報告書500円

※事前申込みについては、2月1日までにお問合わせ  
ください。

○主催 第21回TAMAとことん討論会実行委員会  
(特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦、  
公益財団法人東京市町村自治調査会)

○後援 (予定含む)  
東京都 東京都市長会 東京都町村会  
多摩市 多摩市教育委員会



▲アンケート回答報告(昨年の様子)



▲基調講演(昨年の様子)

## ●プログラム (詳細はホームページ<http://www.renpou.org>)

開会のあいさつ

第1部 12時45分～ 報告「多摩地域のごみ教育について」(アンケート結果より) 実行委員会  
事例発表(発表順は変更する場合があります)

生ごみリサイクルで菌ちゃん野菜づくり 佐藤美千代 まちの生ごみ活かし隊 代表

現場で学ぼう～中学生の職場体験 紺野琢生 東多摩再資源化事業協同組合 専務理事

2013多摩中学校エコへの取り組み 多摩市立多摩中学校生徒会

環境絵日記の取り組み 戸川孝則 横浜市資源リサイクル事業協同組合 企画室室長

おもちゃのリユース 伊藤真理 かえっこカエルクラブ 代表

りさせんキッズクラブ・エコキッズサマーフェスタ 江尻京子 エコにこセンター センター長  
東京・多摩リサイクル市民連邦事務局長

第2部 16時～ 講演「ごみ教育について」 朝岡幸彦 東京農工大学大学院農学研究院 教授  
パネルディスカッション

コーディネーター 山本耕平 ダイナックス都市環境研究所所長、東京・多摩リサイクル市民連邦

閉会のあいさつ

(敬称略)

◇問合せ先 第21回TAMAとことん討論会実行委員会事務局  
特定非営利活動法人東京・多摩リサイクル市民連邦事務局内  
TEL 090-3818-7006 Eメール tama.recycle@gmail.com

公益財団法人東京市町村自治調査会・NPO法人全国生涯学習ネットワーク 共催

## 多摩東京移管120周年記念イベント「はやぶさが切り拓いた未来！」 特別講演と映画鑑賞会 終了報告

多摩東京移管120周年を記念するイベント「はやぶさが切り拓いた未来！」が、(公財)東京市町村自治調査会とNPO法人全国生涯学習ネットワークの共催により、11月27日(水)、府中グリーンプラザけやきホールで行われた。

映画「はやぶさ 遙かなる帰還」は、2003年地球を出発した小惑星探査機「はやぶさ」が、小惑星「イトカワ」の微粒子を採取し、宇宙をさまよいながら故障を克服して、ようやく2010年6月地球に帰着するまでの、宇宙飛行中の状況や遭遇した事故を如実に描いている。対応する関係者たちの一喜一憂が観客の胸に響いた。小惑星の微粒子採取という世界初の大事業を成し遂げた日本人の技術力・人間性に、涙が流れるほど感動した観客も少なくなかったときく。

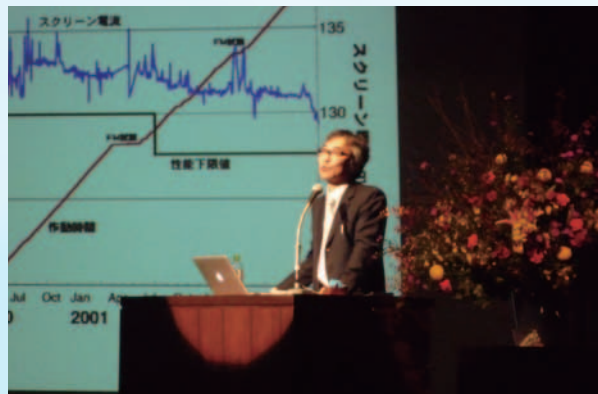
講演「はやぶさ1号2号による小惑星探査」は、20年余り「はやぶさ」のエンジン開発などに携わってこられた國中均氏(JAXA教授)による。講演の一部を紹介する。

人工衛星は、ロケットエンジンの噴射の勢いで地球の重力から離れ、地球の周囲を廻旋飛行する。一方、小惑星探査を目指す「はやぶさ」は、高性能のイオンエンジンにより動力飛行をする宇宙船である。

宇宙に燃料はない。飛行中の燃料を初めから搭載してゆかねばならない。少ない量で長時間飛行できる燃料の研究が最大の課題だった。ロケットエンジンの秒速3~5kmに対し、秒速30~50kmのイオンエンジンの研究。イオンエンジンの加速による電極溶融に対応するための電磁波使用の開発。そして燃料の20,000時間以上の耐久性(1年は約9,000時間)。これらの研究に5年が費やされた。

アメリカの宇宙技術の実績、高額な研究費に対する日本の劣勢。追いつくための努力が新しい研究のきっかけになった。「はやぶさ」の成功には、研究に7年、開発に7年、そして宇宙運用に7年、計20年を超える期間がかかった。

「決まった未来はない。創るしかない。負の条件に刺激されて頑張った。挑戦なくて未来の門は開かない。諦めないことだ。」と、國中氏は熱く語る。そして現代の宇宙開発時代を、ヨーロッパ15~16世紀の大航海時代に照らし合わせた。



ヨーロッパ文明を育てた地中海から脱出して世界の海への旅を求めた大航海時代。人が漕ぎ手のガレー船からマストで運航のガレオン船へ。時間や距離を測定する器具や技術、方角を知る羅針盤や地図などが開発され、コロンブスやマゼラン、ヴァスコ・ダ・ガマらの冒険が始まった。彼らの新しいことへの挑戦が以後の文明につながる。しかし当時、無事に帰国できた乗船員は三分の一以下だったという。

「はやぶさ2」が「はやぶさ」の後継機として2014年打ち上げのために開発中であり、國中氏はそのプロジェクトマネージャーである。「はやぶさ2」は「はやぶさ」が目的とした小惑星イトカワとは別の、C型小惑星の探査を目指し、2020年に帰還の予定である。より精度の高い技術、深宇宙での高速通信、新規の観測装置などを開発し、地球を探検した大航海時代と同様に、宇宙を探査する。C型小惑星には、その構成物質に有機物や水が含まれていると予想されており、地球誕生の謎、生命の起源も探ることを目指す。アメリカも2016年にOSIRIS-REx計画の小惑星探査を考えている。

約500名定員の「けやきホール」を満席にしたこの催しは、宇宙時代の一端に触れることができた貴重な半日であった。

(全国生涯学習ネットワーク理事 菅原珠子 記)

### 大島町への義援金の御礼

当日、会場でお願いいたしました大島町への義援金につきましては、ご来場の皆様のご協力により35,000円が集まりました。12月6日(金)に大島町義援金受付口座に送金させていただきます。ご協力ありがとうございました。



インターネット  
放送による

## 多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催  
後援：武蔵野市教育委員会

## 1月・2月予定の講座案内

## 119回

日時 平成26年1月9日(木)

午後2時30分から約1時間

題名 フィルムからデジタルへ～映画は変わるのか

講師 島倉 繁夫 氏

(メディアプランナー、映像制作(演出))

内容 映画が、フィルム(アナログ)の時代からデジタルの時代へと変わりつつあります。映画自体、時代の最先端技術を真っ先に取り込んで進化してきた事実を見れば、驚くには当たりません。映画の進化を促進させたのは極めて素朴な人々の願望であり、技術の進化がそれを拡大してきたことを考えると、デジタル映画の時代も期待できそうです。

## 120回

日時 平成26年2月13日(木)

午後2時30分から約1時間

題名 まちづくりは「学びネット」から～東大和の試み

講師 堀江 幸夫 氏

(東大和 市民ネットの会スタッフ)

内容 スマホやタブレットなどの情報機器や、ネットワーク環境の進歩が著しい。シニアにも使い勝手がよくなってきた。「市報」や「公民館だより」「ちらし」などのカミ情報から、ブログを利用した生涯学習の仲間づくりへ。わがまちでは、「市民ネット」のシニアたちが挑戦している。その経緯と現状を報告する。

○受講料 無料(ただし資料代として100円)

○サテライト会場 武蔵野市かたらいの道

○講座場所 多摩交流センター 第2会議室(申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください)

## ○ライブ中継・VOD視聴について

多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座視聴(ライブ中継)、過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

【お詫び】「117回はやぶさ1号2号による小惑星探査」につきましては、当日のシステムダウンによりVOD視聴ができなくなりましたことを深くお詫びいたします。

問合せ先：TEL 080-3427-9848(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人

## 東京雑学大学

## 2月講義案内

(会員は受講料無料・会員外は2月13日を除き、1回につき500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第924回	2月2日(日) 午後2時から	再生医療の現状と課題	浅原 孝之 氏 (東海大学医学部再生医療科学教授)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)
第925回	2月6日(木) 午後2時から	植物の学名を知って植物に親しむ ～リンネの二名法	田中 學 氏 (元東京都立高校教諭)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)
第926回	2月13日(木) 午後2時30分から	まちづくりは「学びネット」から ～東大和の試み	堀江 幸夫 氏 (東大和 市民ネットの会スタッフ)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 北へ徒歩3分)
第927回	2月20日(木) 午後2時から	昭和の名力士たち	上村 以和於 氏 (演劇評論家)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)
第928回	2月27日(木) 午後2時から	鬼退治をしなかった桃太郎～なぜ、どうして、 できなかったのかについて考える	濱口 晴彦 氏 (早稲田大学名誉教授)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 西へ徒歩7分)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原)

## 作品募集

TAMA 市民塾 創立20 周年記念  
シンボルマークの公募について

TAMA市民塾は、多摩地域30市町村の方々に、生涯学習講座の提供をし続け18年経ちました。その間、市民交流と融和の精神で「知縁・共同体(コミュニティ)」ともいふべき、数百の自主グループを社会に送り出してきました。

平成27年10月に創立20周年を迎えるにあたり、更なる「知縁共同体」の創造と発展を期して、シンボルマークを作ることになりました。

つきましては、このマークを下記のとおり公募いたします。

なお、このマークは、創立20周年記念事業推進のシンボルとして使用するほか、それ以降はTAMA市民塾のロゴマークとしても活用する予定であります。

**応募資格** 多摩地域30市町村在学・在勤・在住者

**応募作品** A4 サイズ・版下原稿にて(作品に込めた要旨を添付してください。)

**応募締切** 平成26年2月28日(金)

**送付先** 〒183-0056 府中市寿町 1-5-1  
府中駅北第2庁舎6階 多摩交流センター内  
TAMA市民塾 シンボルマーク募集係

**審査** TAMA市民塾理事会

**採用発表** 平成26年3月末日 応募者全員に連絡します。

なお、採用作品には制作実費として2万円支給します。  
(応募作品の著作権はTAMA市民塾に帰属するものとします。)

**問合せ** TAMA 市民塾  
TEL 042-335-0111

Eメール tama\_shimin\_juku@true.ocn.ne.jp

## TAMA市民塾の特長

平成7年10月、東京市町村自治調査会多摩交流センターと共催する自主事業というかたちで、多摩全域における新しい生涯学習の場として発足しました。

営利を目的としない一般公募の市民講師、受講生、ボランティア・スタッフの共同作業で成り立つ講座運営をしています。多くの講座が終了後も自主グループとして存続し、地域の様々な交流をはぐくみ、その輪が広がっていることはTAMA市民塾の誇りです。

## 広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

## 第7回 北多摩合同演奏会

**日時** 平成26年2月23日(日) 開場 13:00 開演 13:30 **入場料** 無料

**会場** まるにえホール(東久留米市立生涯学習センター)  
(東久留米駅より徒歩15分、またはバス「中央図書館入口」下車)

**内容** 東京都北多摩地域(5市)で活動するアマチュアの音楽団体が一堂に会し、年に1回開催している演奏会です。当地域の音楽団体の交流の場であり、また多摩六都合同演奏会としての第1回目から、名称は変わりましたが、身近な音楽に親しめる演奏会として20年以上地域から親しまれています。小学生から社会人までの幅広い年齢層の参加者による、吹奏楽、ビッグバンド、弦楽アンサンブルの演奏をどうぞお楽しみください。

【主催】北多摩合同演奏会実行委員会 【問合せ】TEL 090-6168-1885 (井上)



▲昨年の様子

## 払沢の滝冬まつり

**期間** 平成26年1月～3月

**会場** 東京都西多摩郡檜原村 払沢の滝周辺

**内容** 東京都で唯一日本の滝百選に選ばれており、冬には氷爆する「払沢の滝」を中心に、冬の檜原村の魅力を多くの人に知ってもらう為に、1月～2月にフォトコンテストの作品を募集し、3月に払沢の滝周辺の店舗等で展示、投票を行って、最優秀賞等を決定します。2月2日には、檜原村の特産品などを集めたほっこり市を開催します。

【主催】払沢の滝冬まつり実行委員会

【問合せ】(社)檜原村観光協会内 払沢の滝冬まつり実行委員会事務局 TEL 042-598-0069 ホームページ <http://www.hinohara-hossawa.com/>



▲昨年の様子



# 「多摩市町村のあゆみ」 を発行します!《予告》

多摩東京移管120周年を記念して、多摩地域が神奈川県から東京府に移管される前から現在まで、主に地域の暮らしに関わる事柄と行政(地方自治体など)がどのように変遷してきたのかを簡潔にまとめた小冊子を発行いたします。詳細については、別途お知らせします。

発行日	平成26年2月1日(予定)
内容	序章 はじめに一本書のねらいー
	第1章 神奈川県から東京府へ
	第2章 東京の拡大と多摩地域
	第3章 都制編入運動と独立県構想
	第4章 多摩の空都化と戦後復興
	第5章 高度経済成長と多摩行政の変化
	エピローグ

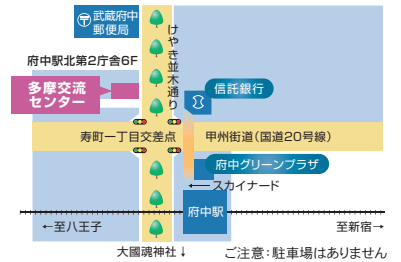
## 「多摩交流センターだより」の問合せ先

### (公財) 東京市町村自治調査会多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町 1-5-1 府中駅北第2庁舎6階

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127 Eメール tama001@tama-100.or.jp

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>



## 編集後記

- あけましておめでとうございます。  
「What's New?」と「多摩のかけはし」を統合した「ぐるり39」も今号で4号目となりました。読まれた感想はいかがでしょうか?  
皆様のお役にたつ情報を提供できますよう、引き続き内容の充実にも努めてまいりますので、今後ともご愛読いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
- さて、つい最近、2つの講演会を聞く機会がありました。1つは、(公財)たましん地域文化財団と当調査会との共催による「多摩の歴史講座」、もう1つは、NPO法人全国生涯学習ネットワークと当調査会との共催による「はやぶさ特別講演と映画鑑賞会」。詳細については、本号でそれぞれ報告されているのでそちらをご覧くださいと思いますが、特に感銘を受けた点をご紹介します。
- 今回の「多摩の歴史講座—移りゆく多摩の景観と暮らし—」の第3講「村から街へ—多摩ニュータウン事業用写真を『読む』」は、開発事業者が記録し、地元へ寄贈された図面・写真をもとに、約30年にわたる開発経過を視覚的に読み解くものです。
- 講師の解説によれば、「(以下要約)多摩ニュータウンは、当時の深刻化する住宅難と南多摩のスプロール化を防止する目的のため、丘陵地に大規模な都市を建設するという大きな決断により開発された。特に初期の造成・開発区域である多摩市域では街場が発展したのではなく、ヤマ・ムラから街への大転換が図られた。」ということです。
- もう1つの「はやぶさ特別講演」では講師から、「(以下要約)「はやぶさ」の帰還までには、研究、開発、運用にそれぞれ7年かかり、合わせて20年を超えるプロジェクトだったが、「みんなが助け合い協力し合ってやる」というモットーで進めてきた。宇宙は人知を超える領域なので打ち上げてみなくてはわからない。挑戦なくして未来は拓かれない。絶対諦めない。決まった未来はなく創る未来しかない。」と参加者に熱いメッセージが送られました。
- ところで東京都によれば、多摩地域では区部に先行して平成27年(2015)の約419万人をピークに人口減少を迎え、その15年後の平成42年(2030)には399万人(約4.8%減)となり、それ以降も減少すると推計されています。また、大規模工場の撤退による経済活動の縮小や大学の都心回帰など地域活力の停滞・低下、生産年齢人口の減少などによる税収減が懸念されます。一方で、少子化対策や高齢者への対応、都市インフラや大規模団地・建築物の老朽化による更新需要の増大、それらに伴う自治体財政悪化などの問題が顕在化しつつあります。
- 都心の活発な経済活動にある程度依存しつつも、多摩地域内で人、モノ、カネの一定の循環を作り出し自立する仕組み、それにより地域を豊かにする試みが今こそ求められているのではないのでしょうか。そのため、最先端産業・大学・研究機関の集積による新技術・新製品開発や新たなビジネスモデルの構築、消費地近接のメリットを活かした都市農業、多摩産材利用による林業など各産業の活性化、それらによる雇用創出と職住近接による定住促進、さらには豊かな自然環境の継承や子育て支援、高齢者支援による住み続けやすいまちづくりを目指すことがますます重要になっています。行政サービスのあり方の見直しも必要となるでしょう。
- 当調査会は、多摩・島しょ地域の市町村のシンクタンクとして、調査研究、市町村共同事業の実施・支援、広域的市民活動への助成・支援、今回の講演のような市民企画事業の共催、交流の場の提供、普及啓発などを行っています。具体的には人的ネットワークづくりやまちづくりに、より市民の力が必要とされる活動への助成・支援のほか、本年度は「空き家対策と活用に関する調査研究」等を行っており、多摩地域等の活性化の一助となるべく活動しています。
- かつての右肩上がりの時代とは様変わりの成熟時代の課題を真正面から見据え、講演会で語られた開発当時の決断と同様の情熱と信念、ビジョンを共有しつつ、行政だけでなく地域に関わる全ての人、組織が立ち向かえば、必ず「縮小しつつも活力と魅力ある多摩」が実現できると希望を新たにした講演でした。  
(M. I.)

# とっておき特産物

## 第32回 西東京市

### めぐみちゃんメニュー

農業振興を図るとともに、地域経済の活性化を促進することを目的に、「めぐみちゃんメニュー事業」を今年度からスタートしました。



この事業は、市内産農産物を飲食店などの協力を得てメニュー化し、消費者に提供することで、参加農業者と商業者を双方向からPRするものです。

市内産農産物から生まれる新しいおいしさ! 詳しい情報は、公式Web(「たっぷり畑の恵み〜西東京市農のあるまちサイト〜」)で紹介しています。

### 西東京市一店逸品事業

一店逸品事業は、モノやサービスなど個店独自の「逸品」を確立し、入りたくなる店づくりへとつなげることを目的とした事業で、平成24年度からスタートしました。

第1弾は、西東京市内の食品関係の商店・事業所を対象に、その店ならではの自慢の品を募集し、試食や店舗訪問などの選考を行い、逸品として認定を行いました。

現在、認定された45品の逸品の紹介冊子の配布やスタンプラリーの開催、イベント出店などを通じて、市内外に発信するとともに、第2弾としてサービス業や物品販売業、ものづくり業など食品関係以外の分野の逸品の認定を目指しています。

(西東京市一店逸品事業専用HP <http://www.ittenippin.com/>)



記事、写真提供：西東京市産業振興課  
めぐみちゃんメニュー TEL 042-438-4044(直通)  
一店逸品事業 TEL 042-438-4041(直通)

【発行日】平成26年1月1日 【発行】公益財団法人 東京市町村自治調査会 【責任者】石井恒利  
〒183-0052 東京都府中市新町 2-77-1 東京自治会館 4F TEL 042-382-0068  
ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>